国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

帝国図書館蔵書

大正
6. 4. 13
購求

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

融
張良
項羽

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

融

塩ナレ衣ノ業　　市十郎申上ル

●タゴヲ右ニカツギ前ノタゴヲヒボヲタグリテ右ノ手ニテ持但シ少シタゴヲカタムケテ持是ハ塩ヲ汲ヌ前ニテ水ナキ故ナリウシロノタゴヲ左ノ手ニテヒボ一節桶ノキワヲ持左ノ腰ニアテ居ル●汲て釣るノ打切ニタグリタル右ノ方ノヒボハナシ又ウシロノ左ノヒボハナシタゴヲブラリト下ゲ●塩なれ衣ト右向ナカラタゴノ掉ヘ左ノ手ツケワキ正面向イヲロシ右ノ手ニテ右ノタゴノヒボヲ掉ノ中カヘヨセ下ニヲキ又左ノヒボヲヨセ下ニ居ナカラ下ニヲキ掉左ノ桶ノ上ヘノセ右ノ桶ハズシ右ノ方ハ下ニツケヲキ浦わの秋ト立身ヲ直シ正

但シ桶下ニヲク時掉両方ノタゴノ上ヘノセテ置テモヨシ

又

●汲て釣るノ打切ニタゴブラリト下ル迄同断●塩なれ衣右向ナカラカヅキタルタゴノ掉ヲ夫ナリニウシロヘ足シ左ノ手ツヘ頭ノ上ヲコサ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

セ両方ノヒボヲ捧ノ中カヘヨセ下ニ居ナカラノタゴ下ニヲキ比
末同断

北衣束ニ覺

脇一人　角帽子　水衣キナカシ　扇サス　珠数
シテ　面三光　尉髪　厨斗目　水衣キナカシ
腰簑　扇サス　たこニナフ
後シテ　面中将　黒タレ　初冠　單狩衣　扇
大口ノ上指貫　着付白ヌメ赤ヌメ

扇後ニサシ一声ニテ
水タゴ右ノ背ヘカタゲ
右ノ手ニテ紉ノ二筋ニ
竿ト持ソ山ノ左ノ手ニテ後
ノ紉一スヂモナ左ノ腰
ニ手ソヘ出ル一セイシテ
舞臺ヘ入ル
ヲ柱ノキワニテ
ヒラキナク足ト
メ両方ニ持
ソヘタル紉ハナ
シ月もと
やト謡出ス

舞附

月もまちや此ノ塩ハ有りて志不ク両れ
海さひとゝ海をしきり那サシ　こちのく
いつくハ何もこ塩竈まうらこそ渡
海老ク身れ与海無もいさやさらめか
きんもすめ海ハ有ハ面ハ照日清き
なこれかそしハ稲ハ今月ハ稲の穂

中有日者ハやうハ此ハ塩竈まる月
も都まるもなり哉　下ニ云　稲ハなりハ身ハ
すてふおひうさなりてもろ志ろか
上ニ云　雪ものこ清りハもぬり年月まる
くく春ハむかへ稲ハ今ハ志ろり
松まん浅まても我身のうへこ汲こそ志
海塩ハ稲衣袖さもき浦半乃穂の　右ニ云キ　タゴ下ニ置両方ノ紉両
手ニテ持ソヘヨセ水タゴノ上ニ竿ヲキ立正面ニ居
夕紉ハかく　ワキ詞　いりハ舞夜ハ身ハこの
あらうまる人ハ　シテ詞　ワキヘムク　さらん俗此ハの塩汲
ハくは　ワキ　正面ムク　姉しもや夜ハ海ハ上にても
なれハ塩汲とハあやまりうらハ舞とも
シテワキヘムク　あら何ともなやさて夜をハいつくこ志ろ
しめされてはれ　ワキ　此ハをハ六條河

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1
ガラス使用

京の院と社形してゆへ シテ河原の院
こそ塩ノ内ハ浦ゆよ 正面ヘムク 敷のおとこ
ちのくれ手賀ハ志ゆりまを都ハ
うちかうけされる海邊なれハ セル名ハ
なれる河原の院ハすいをもくめ
ち青いをもくめこそ塩ノ内ハうつ人
なれハ塩ワキヘムク 汲とおほさ如雲や ワキ対 実
正面ヘムク くるちのくれちの塩ノ内ハ都の内
かうつされる事形しおすひてゆ物ハ
あ能なりハ心離ノ嶋ゆり シテ さんゆ 右ヲ請 阿能
こそ鷲ノ嶋能よ敷のおとこ法〇ハ
船ハ ちやれ所志ハ思えん ハ遊舞
下そ巳●や 上下ヲ見ル ●月こそ 東ノ方見ル
接くなりし法りかし 東ノ方高ク見 や 月社出て

能へ ワキ 正面ヘ直ス 昔かし月ハ以て海ゆるや
あまの鷲ノ嶋れりの様ハ名れ者
しさへ法りて四りんかうつり月ノけ
まてもせこ志うかへ海ノのうへと思ひ
出されてゆ シテ 何ワキヘムク 唯なれ西舞の者し
きゝ此僧ハ此ハ志ゆ海ノこハりしも
賈ハ嶋ノ宮ハやらんセル名ハ者す紀中
ハ樹 ワキセル 僧ハうつく月下ハ
おすも シテ ワキ しくくも シテ 古人ハ
二文 今月せんの志う 二足ツメル 法ハ行り 上ヲ引 正面ヘムク 昔かや
いかしくも月ハちかの塩竈のく
右ヲウケ 浦半ハ秋もなりハかく 正面ヘナヲシ出 松ノ也も立
足ヲトメ 右ノ方ヲ遠ノ見 なりや 夢ハ海ノ見ハ嶋ノくさ ワキヘ向 いさ

いかなる事なるらん　シテ　あきこそ大原や

をしほの山も今日ぞ社を　ワキヘムキ　ふ返しあ

つらぬ錦の川をわたるや　地　正面ヘムク　吹きつけて

も秋の風吹くなるもや萩つきぬらし

ミゆるは何くぞ　トメテ　西ノ方遠ク上ヲ見　秋も千秋もなや

山中に折る松の尾は嵐山も吹くなり

地　正面ヘナヲシ　嵐の中行秋の末は音羽の汐の月影

シテ　さきも汐曇りもなやみて　地　浮藻もさしける

月をめでて　正面ヘ歩出　シテ　息に茶して　言　足ヲトメ　今ハ立に　ワキヘ會釈スル心持ニテ　歩シ面下ゲル

両手ヲ合スコヽロ　ワキたれ秋の夜の長き思ひをしるかや

タゴノ方ヲ見　タゴカタゲ　先いざや汐をくまんとて　タゴノツバヘ行　両手ヲ持立　チヨトヒザツキ　左中ヘ行　持や田子のうら

右ヲ請　正面サキヘ出　寄る去るあるの汐あらも　クム様ニテ　タゴ向ヘナゲ　くめハ月をも　右ノ足引右ノ　タゴ見左リノ

足引左ノタゴ見又右ノ足　ヒキ右ノタゴ見　袖にまつ汐の汗に　ワキシ　ワキ坐ノ方ヘ二キ右ヘトリ　ゆる浪のよるの老　橋掛リ

ノ方ヘ向キ　人こそへつるこの汐曇にくきまきまじく　シテ柱ノキハ迄行　タゴステ

スグニ中入　汐もみちくる成にけり　汐もよきほどになりけり

あまり　ワキ上ル　いざ松陰のころもとくとし

まてし　岩根の床に夜もすがら

も事静かにみるやこそ夢まよふかの

旅寝かな　後シテ上　又あはれて年をへし

後シテ出羽板ヲ開キ切幕ノ内ニテ正面ヲ立出ル
橋掛リ一ノ松ニテ正面ヘヒラキアミテヨリト語ル

おとみ古へにかへる浪のうち汐をまのう

ら人のこしひの月を隠の千代の

浦にも昔き世にこころをのこしまう

ちぎりこそ　ワキヘムク　駆大臣とハわり事なる里　正面ヘムク

汐るままにくるをよせあのま　右ノ方請

うまこち松陰に明月にめ移とう

くれ　正面ヘノリ込　ヒラキ　ひ露白雲のそもそも立

中の新月はいろも見ゆれど雪と曇
（竹出行カリサシ廻ニテラキ）
（舞臺ノ内ヘ）
（上地）
まとのくのそれ舞臺ノ内ヘ
シテ柱ノキニテ正面ニテラキ
て花とちりぬる桜ぞ
（竹出行カリ）
（上地）
（ワキ坐ノ方ヘ出右トリシテ柱ノ方ヘ下リ見）
サシ廻ニテラキ
つつ白川の流れ
シテ
（扇ヲカヘ行シテ柱ノキワニテ盃ヲ扇ニテトメメルヤウニメヒヤウニテヨヒサツキ正面ヘ直ニ立
両手ニテ扇持拍子ヲ正面ヘ入リ込アトヘメラレヲトリ扇メニメクハリ舞ニカヽル）
（下ニ居）
ありあけの月
（舞トメ小廻左右メヲ込ニラキクツログ）
神
（上地）
あり明の白妙
（正面ヘムク）
（下ニ居）
舞袖や雪もなほ冴ゆる
のこゝろかまき初月のまとしくふみ
もそとそとそこなきいろ迄もそとて
（シテ）
それハ西山ニ入日のいまこ迄もそとて
（拍子正面ヘリ込ニラキ）
（上ヲ見）
たゝかゝりくまなきかけの月のかる
あるまのうちもきこのこゝろかり
（上地）
（角ニ行）
陽のくるれそしらぬかの
（角ニテ右上ヲ見）
（角取ヘ）
（上地）
への雲のろくみの月のかげ

（正面サキニテ下サシテラキ）
を船もなをつゝむ
（上地）
まとのくのそれ正面ヘリ込
（右手上ゲ頭ヲサシ）
（竹出）
（シテ）
つゝむ
（上地）
（扇中ヲ左ヘトリヒラキサシ右ノ下迄見ニテ正面ヘトリ込ニラキ）
上の光をそふる
（左ヘ）
（角ヨリ左ヘ廻リ）
（上地）
廻り
（大小ノ前ニテ小廻メノニテ）
一輪も陳りそ
（左ノ手ニテムク子）
（サシメ上ヲ）
（正面サキヘ出）
（右ノ方ヲ正面ヘリ込ミニテラキ）
（上地）
折らそ
多々良浜辺の桜かな
（下ニ居扇カホニアテ）
（シテ）
魚も月下の海よりそ
（地）
（扇右トリ）
きくらも
立角ヘ行
ありし秋のあはれ
（角ヨリ左ヘ廻リ）
（地）
多々良浜辺の春
（西方雲ノ扇）
見もやらて
（旨）
東の方高く見
（右ヘトリ込）
もやらて
（シテ）
（右ヘトリシテ柱ノキワヘ行）
雨となる
（右向左ノ袖カヘシトメ）
（シテ柱ノキワニテ小廻メニテラキ袖モドシ）
入るふるまひ
（右ヘ向左ノ袖カヘシトメ）
花名殘和し
（左ノ手上ゲ正面サキヘ出シテ柱ノ方ヘ向）
（右ノ手上ゲ左ノ袖巻右ノ足引）
西方やなごりおしの
（シテ柱ノキワヘ行）
（右ヘトリシテ柱ノキワヘ行）
出光仏をとをして自乃都か

流し

●地頭ワキ柱ノキワヨリ橋掛リ一向左ノ手上扇子横ニ持
切幕ノキハ迄ユキ幕ギハニテ小廻リシヒラキ手下ゲ
舞台ヘ入リシテ柱ノキハニテヲヒヤライホウ〳〵ヒニテ左
ノ手ノ扇子上ゲテ是ヨリ常之通リ

扇右ヘトリナガラ右ヘ
廻リ留座ノ〳〵ヘ行
●一端ハ澤ら〳〵●さりとは池なんのあよ宿し
笛座ノ〳〵ニテ目付柱ノ内ノ上ノ方ヲ左ノコシラ
ヘトリ扇ニテソレヨリ見ガラハラヲノバシツカ
西ノ方雲ノ扇カニ
扇ニテモ
●魚ハ月下れ波をうすみ　左リ廻リ
左ノ足右カケ右ノ足ノヒラキ
右ヘトリ左ノ袖カブリ東ノ方
ミル右ヘトリ袖カブラダ東ノ方
キニテモヨシ
●かけ
柚モドシアトヘ二三足下リ左リノ袖ヲハシガ
カリノ方ムキナガラ〳〵キシテ柱ノキハ
ヘ行ク廻リメ袖モドシヒラキ袖カシトメ
●うこもきそ〳〵ぬるこの雲とあるまゝ

●三ノ段目

ワキ内ヘ入リ
●さてやうこの様こそ　シテ常ノ出
少シ出行ヤリ
左ノヨシ入レ
●花　ゑふもあそこの白川のなごり
サシ廻ヒラキ
シテ柱ノキハニテ正面ヘヒラキ入ヲヒヤ
トワタイ〳〵入シテ柱ノキハニテ正ニ右ヲ向キ
ヲ見トヒラキテヨシレ
ソレヨリ上ヲ見ナカラワキ
坐ノ方ヘ出右ヘトリシテ柱ノ
下タヲ見ナカラ扇ヒロゲ行ク
柱ノキハニテ西扇ニテトメル
ヒラキテ

●地頭ワキ柱ノキワヨリ橋掛リヘ向左ノ手上扇子横ニ持
切幕ノキハ迄ユキ幕ギハニテ小廻リメヒラキ手下ゲ
舞臺ヘ入リシテ柱ノキハニテヲヒヤライホウ〳〵ヒニテ左
ノ手ノ扇子上ゲテ是ヨリ常之通リ

融　先左近普観院業

●扇右ヘトリナガラ右ヘ廻リ笛坐ノ前ヘ行
右ヘトリ
一湍え降らん（
笛坐ノ前ヘ三テ目付柱ノ内ノ上ノ方ヲ左ノコヒヲ引テ見テソレヨリ見ナガラハラヲノバシツカ〳〵ト角ヘ出テユキ
●とりハ池邊の木ニ宿し
扇ニテソレナリニ足ヲヒカズスグニ下タヲ見
●魚ハ月下れ波ニふす
左リ足リ
地　きゝとも飽かじ
西ノ方雲ノ扇カヽヘ
扇ニテモ
●かけ
左ノ足右ヘカケ右ノ足ヘフミヒラキ右ヘトリ左ノ袖カブリ東ノ方ミル右ヘトリ袖カブラズ東ノ方ムキヒテモヨシ
袖モドシアトヘ二三足下リ左リノ袖ヲハシガカリノ方ムキナガラヘキヒテ柱ノキハヘ行小足リメ袖モドシヒラキ袖カヘシトメ
うこもまうく　明かたの雲となり雨となる

盤渉　三段ヲロシ

●三段ヲロシシテ柱ノキハニテ左リ一ツフミヒラキ右フミ込右
ノ腰ヲ入レ右ノ手高ク上ケテ立テ袖ヘクヒラキ身ヲノバ
シ右向キ例ノ通リクツロキ宿リノコジニツカヘルユヘニ右ノ
通リ袖カブラズ右ノ通リナレモ雲林院等ハ融同様ニ
袖ヘキ上ル杜若ハ女ユヘニヤハリ常ノ通リヲロシニ袖カブル

ニノ下タニチヨトヒサツキ正面正ニ立
柏子ニ正ニ扇両手ニテモナカラニ足右左トモナカラ正（出正（ノリ込
両手ニテ扇モチウケタルヤフニス
荒男ぬや曲水の盃 地 いうけ給もしく 遊
アト（ムラク上リ扇タニニイニカルクハリ
舞の袖 （ニテノト小廻左右メ有込ヒラキ切ニラウ 正面ムク 左
あゝ面白の遊ぬや・近け
柏子正面（ノリ込ヒラキ
ゆ（ニテ春ハ 地 霞さそ 左 ハ月のゆる
上ノ見
秋ハ星の落きが・ 角（行
春陽の春の初
角ニテ右ノ上ノ見
角トリ左廻リ
よハ ニテ かすむや 地 遠山 地 紫の
正面先ニテ下ヘ
サシヒラキ
色ぶ・ 地 ぬをおもたゝ 地 ずゝ
正（ノリ込
ヒニテ右ノ手アゲ
ゆ舟の遊興ハ ニテ つゝそろ〳〵 疑ふ
角ニテ右ノ手ニヒロケカウ正先（出扇ノ中ヲ左（トリ
両手ヘキニヒロケカウ正先（出扇ノ中ヲ左（トリ
ヒニテサ（ニヒト、ミニナリ左ノ扇モチナカラ高ク上テ
又左リノ下タヨリ見ル体業アラケナリテキ（ルハアト（ツニヤカナ心モチ
雪ぞこの 地 飛鳥川 地 のうけ 左 るもあゝ ろ

扇下ケカウ左（ヨリメ正先（スコシ出テ正先キニテ左（カ（リ大小ノ二ツ
ユク
く 地 一瀉も降ふく ニテ 玉水も上ふく
大小ノ二ニテ小廻リ
左ノ手ニ扇ヨコニモナカラムネサシヒテ
地 名ハ泥多の樹ま 扇 ニテ 奥ハ月下
正面（右ヨリ込）レノ子ナカラニアフニ
柏子ヒラキ
左ノ下ニ出レバヒロク下ニ居扇ホニアテ
左ノ手ニ扇モチ
地 学ともあゝ ・ 名見
角トリ左廻リ
なき ニテ ・ 月もとや ・ 吹の雲
西ノ方（雲ノ扇メ
東ノ方高見
左手上ケテ正面先（出左ノ足右（カケテシテ柱ノ方向キ右ノリナカラ左ノ袖ヲ二キ左ノ手アケテヒト（身ニナリ左ニシテ柱ノ方（早足ニユキ
ゆり雨 ・ なる 地 芝を陰 ・ さゝろ ・ ま〳〵
シテ柱ノキハニテ小廻リメ正向キ両手並ケテ袖底シヒラキサシ左ノ袖カ（ル
入ふそ ・ ほ ・ 山あゝ名ぬおゝ の旬
右向トメ柏子ヲミ袖底シ
扇タニニ入
彩やなりおゝ の旬彩

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

装束之覚

初シテ 面 笑尉 襟 浅黄 着附 鬘斗目 尉髪 水衣 フトジケ 茶萌黄 ビラウドノ類

腰帯 純子 腰蓑 扇子 尉扇 田子

後シテ 面 中将 襟 白 着附 白練 桃色カイキノ類 指貫 紫 浅黄 萌黄

腰帯 白無地 若髪 冠纓 直衣 扇 緋大口 コミ

初シテ

田子カタケ一声ニテ出シテ狂先ニテ足ト〆

月もいや出塩に成て塩ゟ面乃浦

さびゆゑ筆ゟ風 サシ 陸奥を

いぞくハあきて塩が面ゟうらミ

くてゝゑ老の身乃よりへもいさや

定めるまし心もしらん所の面を

ちゑ月をみとかそめれハこよひ

そ秋乃空ゆゑなるまやうつせ

〜

初ハ心ノ口ヲ

[illegible]

上ニテ

雪とのミつもりそきぬるゝ遠月

乃しく春をむかく秋をそく

面下ケ三ノ田子ハナシ

時雨ゟ春の風まても家ゟの

うへてくみて志ゟ塩まれしも

後ノ田子ハナス 石ウケ三足程出ル

袖さむき浦ハの秋ゟ夕ゟ

田子前ニ出シテ下ニヒサツキ

あれこそ籬の嶋よ熱大臣常ハ
内舟とよきられ三国宮の拝舞
さ回ぐ成し正ハ直シ家をのし　ヤ手カヨリ東ヲ下メヨリ見上ル　や月
社かてらへ　ワキ　実正　く月の出て
たとや何のまのさら嶋は荒乃
梢に多の宿しさへつりて志も
人に輪日月新まてもこ志りに
帰る方の上のと思ひ出られて
何と呂かり乃面前のさしきが　シテ羽　ワキハ

内僧の男に志るなとハ若も
賈島のことばやらん　多き宿を　二足ツメ
池中の樹　ワキ　僧正　ちくく月下
乃門　シテ　おしも　ワキハ　ちくも　シテ　古人
のあ後　ワキ　かり　同前の秋　二足ツメ
あり　上ツ同　実正　やいよしも月なき
ちこの浦面乃く浦　正ハイデ　ハ乃
秋もなりなりて松風も立ありや　正サキニテ足トメ
きりの籬の嶋　左右中ト足ト氏ニ右ノ方ヲ面ヅカヒ　ワキハ向　いさ糸

も立帰り むかしの跡を陸奥の
ちかの浦をも詠見んや 正 シテ枉サキニテ
うらもなかりけん 早笛 須磨の浦
を都の内にうつすも多かれ 中入行ワキ向
 下居 ゆかぬ方なしとへ シテ謡 淡路の天
皇の御宇に熊の大夫みちの
くにちかの浦竜に睡皇を
学し古歌にきもん 正 紫式部の須磨を
うつし 右面計ニテ見 河の有にはのこうの

浦よりも日毎に潮をくみ
正 むすびて須磨をつくる 一生御遊の
便りとしもの 正 拙是を其様にお
續して歌ぶんもなるれば浦にて

哲学

おもかげ伏見の水回 淀の川

なりけれはこのすもの君まさて

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

煙たえにし塩竈乃うら淋しくも
みわたるかなと貫之もなかめて（ワキへ）
みし（下目）（正）実やなかむれハ月のみつ
る塩竈乃浦淋しさも荒はつる（右ノ方面計ニテ見ル）
あとの世まてもしほしみて
（正）老の波もかへるやらん（面下ゲ）あら昔（左ノ手ヲ）
（タテ両手ヲカケカヘ）恋しや（上ヲ目）恋し（面直シ）
やとしたへともなけゝとも
かひもなきさの浦千鳥音をと（安坐両手ニテ）

（シホル右ノ手ヨリサキヘアゲテシホル）のミ鳴はかりなり（ワキ）いか
尉殿見えわたりたる山々ハ皆（手ヲヨロシ）
名所にてそあらんおしへ給へ
（シテ）（立ニテ柱ヘクツロギ）承り候名所にて候ハゝおしへ申へく候
おしへ申候（ワキ）まつあれにみえ（東ヲ見ル）
たるハ音羽山にての（シテ）さん候あれ
こそ音羽山候よ（ワキ）音羽山おとにき
きつゝ逢坂乃関のこなたにと
読みたれハ逢坂やまも程近ふ社

うらめ シテ 郡のことく関のこゑるにはいは
よそこれ者あるこれ何これは逢坂の
山は音羽の峯にこのくれて北辺より
はみてゐなり ワキ あゝ音羽の嶺 少シツヽ正面
ノ方ヘ面ヲムク
つゝき 次第しく乃山花は名所く
をこのよりもへ シテ 白 このよりもつくさじ
所の名所は所は中山清宗寺
野越郡とは あまをとし ワキ 白
又右ノ方ヘ面ヲムク少シヅヽ右ノ方ヲ見ル
こゝろまへにつゝきたる里一村の森

のこゝろ シテ 白 それを志るへ于
御説さよまこさ時雨の秋なれ
は紅葉もちきいなり山 ワキ 風
もしれ行雲のこゝろ梢もちきて
秋の山路 シテ 白 かこそ秋よ名に
志れ春を花見し夜乃森
ワキ みかりの雲も陰青き 右ノ方ヘ向ク 野山に
ダンく右ノ方ヘ正面迄見廻シ
キタリコノ処ニテ正面キトメル
つゝくさてきれこのに シテ 阿邑こそ
夕されは ワキ 郡べの秋風 シテ 秋子

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1
ガラス使用

志ことて ワキ 鶉鳴なる シテ 深草山 ワキノメハ行袖ヲトリ
よ 十日 木幡山 右ウケ右ノ手ヲ出シサシ 伏見乃 又右ノ方ヘサシ 作田
淀 面ヅカイ 多羽もみくすりや 上ニ此 詠見 シテ柱ヘツロギ
やるとすると乃 雲ゐ 白雲乃
とやくれそ志る 雲山の巌も
木深くこゝへこゝる いのゝ日と了
なるらん シテ 正 あれ 社大隊や
小道の山もはゝ丁をゝ 浮絶し ワキヘ向クワキヘ二足ツメテモヨシ
そめつゝめ行くとハさるへや 地 哭に

つけても秋の風吹くるゝ山や峯
つゝき 西ヲ見ル 森にみゆるハ何くそ イシテ 秋も
早く 生ゝ行 松の屋乃
白キナリ二足ツメ 上ヲ見 ゆらし 山もみくすり 地 正 嵐更
ゆく秋の東は 宮殿のほゝ月 雲
に シテ 秋に 浮絶 ゆるのもぞつく
地 隙もおしてゝ月かめで シテ 正ヘ出 鳥に
象して 上旨 秋とハけ トメ に ワキ 両手ニテ歩合
ワキヘ向ツシコシヲカヾミ右ヘクツロギタヾヲトリニ行下ニヒザツキウシロヘカツギ立
たるを秋の東は なるゝ あ のすり

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

よしもやまづいさや遠をくまんて
笛ノカミ近ユキ
て持や因子乃うらあつまから
右ウケ左ノ足右ヘカケテ○右左中ト
ヒナガラ右ノ方ヘイデ
ゆの遠あらもくめい月をも
正サキヘ出両タゴニテ水クミヒラキ
両タゴヲ見
袖にもち遠乃汀に陶ふ流乃
左ノ方ヘサシ出右ヘトリ
右ヘ廻リシテ柱ノ方ヘ行
よるの老人を見へつるの志は
タゴステ下ニヒザツキスクニ立中入
雲りにのきし絵遣く跡もこへを
ありにあり跡をもみきたりす
にきり

委附

五 ●浦淋愛も若もつる跡乃世
右ノ方面計ニテ見レ見様体左ヘヨリ目五ヲヤフニ顔計ニテ
見ル荒ハテタレ氣色ヲ見ルコロモテ
まくも志ほしみて

六 ●うつるや遠あらもこのし志しや
面下ケ
左ノヒザヲタテ両手ヲカケカヘ
左ヘヨリ以左ヘカタムケアコ右ヘ
横ニスルコヽロ
左リヘヨリタルヲ体ヨリノバシ
夫ヨリ面直ス
こひしやしくと

七 ●先ハ見ルにこつるハ音羽山ニの
ロキ
東ヲ見ル右ヘ引付テ体ヨリハ顔ハ東ヘ向キスゴス

八 ●木幡山伏見の小田淀鳥羽も
右ノ手ニテ右ノ方ヲサシ
又右ノ方ヲサシ
左ヲ見中ヲ見
ソレヤリニ向ヲ遠ク見ル淀鳥羽
ノ処文句ニ合セテミテハアシヽ
こつるりや

九 ●塩花くもハ月沖も袖にもち塩の
ヅカヽト葉巻ハシ近出足トメ両タゴ葉巻ノ下タヘヲロシアトヘヒラキ
ナリニ水クミ両タゴ見コノ見様左リ引キ左ノタゴミ右ヒキ右ノタゴ見ル

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

桴ヲ右ノカタニカツギ前ノタゴノホラ右ノ手ニテタグリ桴ニ特ソハスカタ筋ノヒボラオエビ（タグリ少シタゴラカリメケテ持是ハ塩ヲクミヌ前ニテ水ヲキヨメントリシロノタゴノヒボ一節左ノ手ニテ持左ノ腰ニアテテ右ノ通リニメ一セイニテ出ル

舞台ニ入テ柱ノキワニテ足トメ詞

一・月もよや出あのようて

二・時分ふ松の風とも（左足少シニキ）（右ノ手少シ上ノビテ下ヲ見）そのおのうつこ

（タグリタルヒボソロ〳〵ト桴ノヲトラスルメロス）くみく あの（少切ニ左ニボ）塩をれ汲ん

（右ウケニ足出）

（左ノ手ニテ左ノタゴノヒボヲ桴ノ中ヘヨセ桴ヲカタヨリヨロシ右ノ方タゴノヒボヲ一二ナヨセ下ニテキ下ニカケツキガラ左ノタゴヲ少シ前ノ方（ヘ下ニラキ桴ヲ）桴ノ上ノセ句ノ桴ノ外ニ右ノ方ハ下ニヨロシクヌケニテ立ニラク）

（桴ノ上ヲ）浦とおの秋のタ〳〵のお

（左ノ手ニテ左タゴノヒボヲ桴ノ中ヘヨセ桴ヲカタヨリヨロシ又右ノタゴノヒボヲ右ノ手ニテ桴ノ中ヘヨセ下ヘホッキガラ一ホニ下ニラク左ノ手ハヌケニ左ノ）

浦とおの秋のタ〳〵

（右向キカガラカツギタルタゴノ桴ヲ天テリニケシロ〳〵シ左ノ手ハ頭ノ上ヲヨセ両方ノヒボヲ桴ノ中ヘヨセ下ニ居ナガラタゴヲ下ニラク此末同断）

浦とおの秋のタ〳〵

三・松無ふく秋し（正ハ直シ）かぜやしや月社も

（やゝ中ヨリ東ノ下タヨリ見ルコトハ下ノ月ノ陰ヲ見テ下タヨリ見ルナリ）てらく

四・よるか塩屋をうばし（右面計ニテ見右足少シクロゲヒラクキミ計ニテ見ル）

川の海よりも

正此ヨリヤアリツハナルハアラン老人イヤシキ形

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

十三 融

早舟

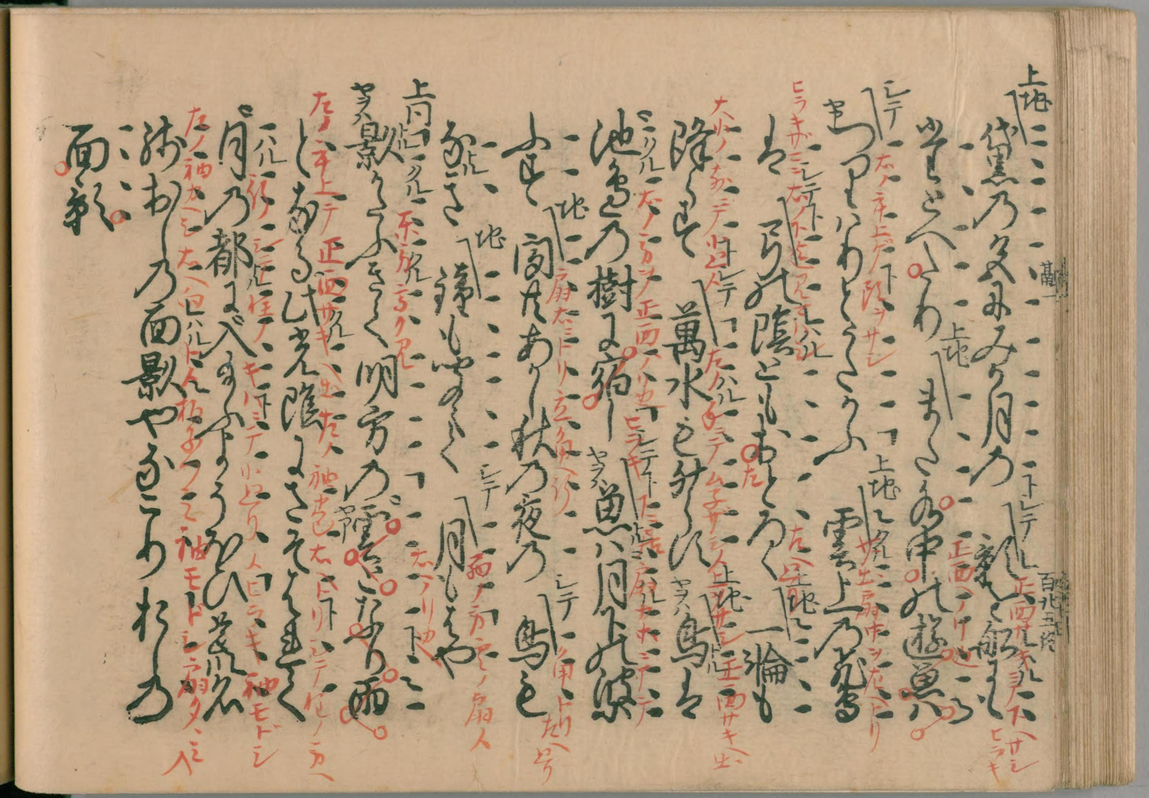
芝ハ東國方ゝ出る僧に
ていゝ我来都を見とは程ばしば
思ひ立都にとりは　思ひ出
心うしるへ定とりとぎ舟路とし
ゝり山と越ぐ里も同しひとあ
しみ〳〵　ウタを重ひ朝こと
乃ゞく宿の名称もかさなりく
都にはやく君にまをり〳〵急て
程に芝にはや都に付くはばあさ
アをは六條河原院とやゝ人は
暫休らひ一見をはやとしひは
月をはや出塩に成く塩竈乃

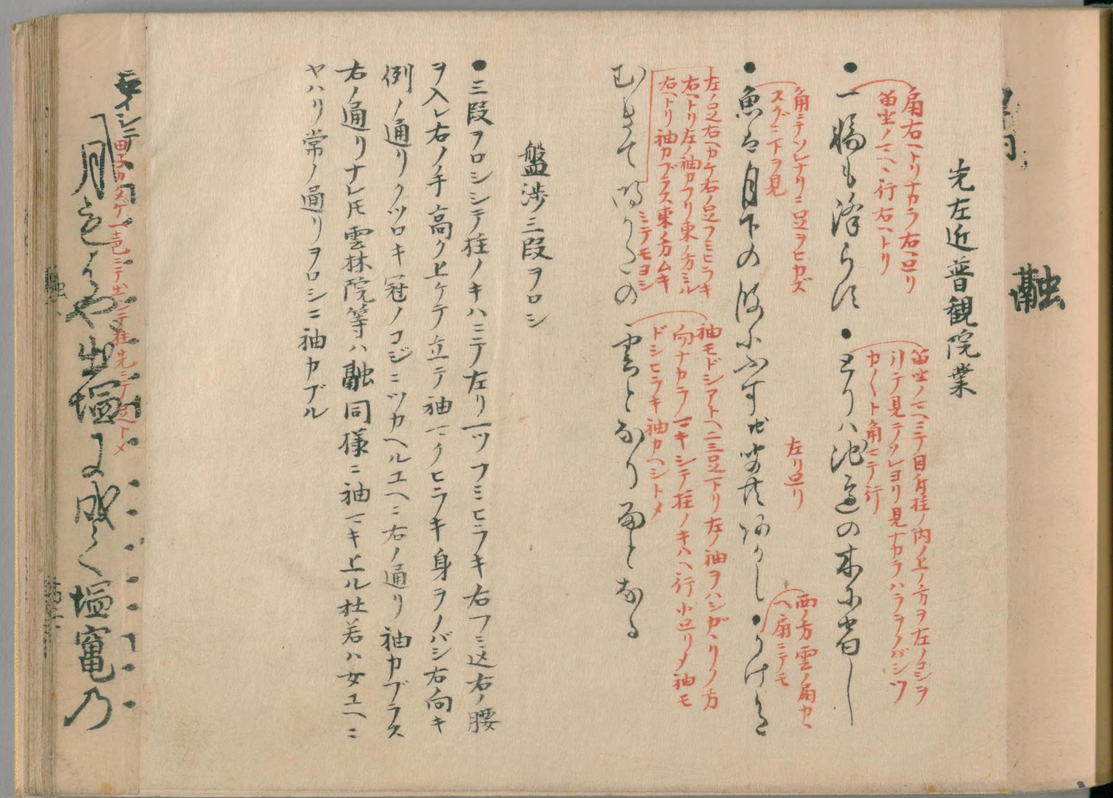
一セイニテ出タゴ
たニカタゲブタイノ河ヘ
八足ヲトメ
強扇後ナ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用





国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

浦さひわたるけしきかな　陸奥

発
掌

●名所を……伏見の竹田淀鳥羽

塩かまの月も都の最中かな
秋ハ半ハ身ハ既に老重なりて
もろしらか雪とのミつもりそ来ぬる
年月の春を迎へ秋を
そへしくるゝ松の風まても我身の
上と汲て知る塩なれ衣袖さむき
浦わの秋の夕へかな

ワキ いかに是なる尉殿御身ハ此
あたりの人か　シテ さん候此所の塩汲
にて候　ワキ ふしき也是ハ海辺
にもなきに塩汲とハ誤りたるか
シテ あら何ともなや扨爰をハ何く
と知し召されて候そ　ワキ さん
候此所をハ六條河原の院とこそ承
て候へ　シテ 河原の院こそ塩竈の
浦候よ　融の大臣陸奥の千賀の塩
竈を都の中に移されたる海
辺なれハ名に流れたる河原
の院の河水をも汲め池水をもくめ
爰塩竈の浦人なれハ塩汲

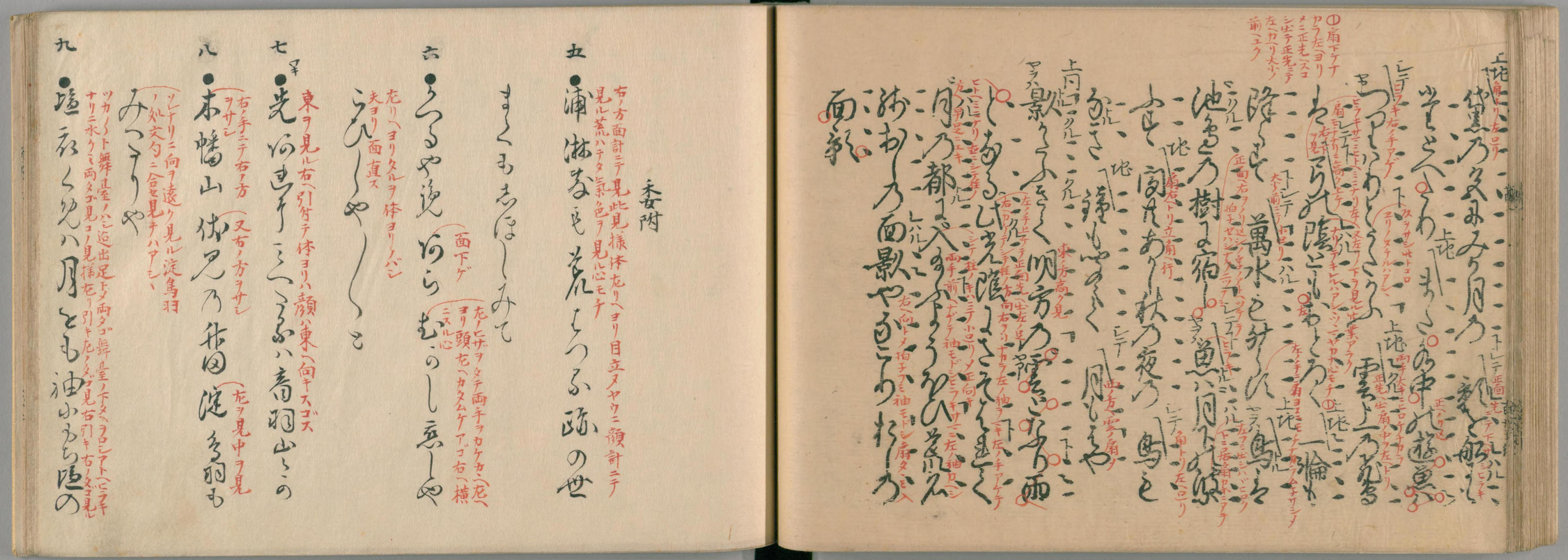
さなきおかさぬうや　早内　正　こそ〻陸
奥乃千賀乃塩竈と那れ中に
移されてあるゝ事及ばなくに梅ハ東
なるハ離れ鴎ひり　シテ　右ヲナケ　さんにあ東社
離れ鴎ひよ融大臣常ハ御船と
よせて東ハ酒宴の遊舞楽成
し　正　ヤ　中カヨリ　下ヲリアヒル　来そしや月社おくらへ　早内　正　こそ
月乃出くにそやあ乃離れ鴎乃遠
の梢に鳥の宿し鳴りて罰にさう
月乃新しきもこそ志うに海る身哉
上にと思ひ出まてに　シテ　内　ワキ　何と此
乃面あれ気なくに俤乃に身に和
なくし　ながめ賞鴎ゝ紫やん

鳥ハ宿し池中乃樹　早　ロ　正　僧ハ
月下乃つ　シテ　ワキ　とゝを　早　ロ　正　たゝを
シテ　古人のあ語　上　二上　ヒ目茶の秋蓋に
上　正　哉や古へも月に八子賀乃塩竈の
ゞく浦ハ秋もなりにけり　正　ハ　テ　松風も立
なりや　正　ヲ　足ヲリ　ヲ　正　ヲ　足ヲリ　ヲ　乃離の鴎かくしゝ哉
太左中ノ足上ニ居ヲ方ヲ面ツカヒ　ワ　ロ　ハ　ロ
ゆきしらしと有れ跡と陸奥乃ひ
乃うけはと　ハ　ル　シテ　正　ヨ　サ　テ　誘めひや子賀乃浦ハ
早内　塩竈乃浦と称の中にうさまてる　中ハ行ワキ向下居
シテ内　波ハ天皇乃御宇に融大臣陸奥
乃千賀乃塩竈の眺めをうつしなを
詠ひ　正　ハ　右ハ面舞ニテ見　乃塩竈とうしあ乃籬波
のこつの浦よりも目にさへ潮と波を　正　家

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1
ガラス使用

中山清閑寺今熊野とハあまそかし
桜ハ未よつきくる里村の家のこと
ち それとしらへにかくんせよおもてき
しくまの秋なまハ紅葉も青さ稲
荷山 風も蓄り雲のその稍もお
とさ秋の夕 今そ秋のおかれおふ
春ハ花ゆへし夜の森 緑の雲も濃
こ野山のつく里ハいりぬ あまこそ
ゆふさまハ 聖名の秋風 白浪
こく 鶴なくなる ふるまの山よ
本幡山ふ見の竹田淀の羽もたし
こりや 諫めやるそ明ら乃雲の
雲乃ぶや蓄そむる寺山の嶽も

こふくかたゝ雲ハいかなる前なるか
あまこそ大あやどしかの山もそ社
ハ浪くんしそめつゝめ稲ゝ間をゆへや
ゆよつきても秋の風吹くなまや
嶽つきあまこゆるハ何くそ 秋も
早秋をなやまゆまの松の尾の風
山を見ゝたり 荒しかの秋の夜
雲淀の月殺 こもと 堀河もん
やるく 落ましてる月よめて 興
案して 身をハきふ忘まこり秋の
夜のかゝり和語りしかや先ハ 堀と
かゝまんらく持や田子の 五畫
らをの堀夜くめハ月とも 禰よりわ



国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

柳ヲ右ノタモトカラゲ前ノタゴノヒボヲ右ノ手ニテタグリ柳ヲ持ツヘ又カタ筋ノヒボヲオユビヘタグリ中シメゴヲカタムケテ持是ハ塩ヲクベヨ前ニテ水ヲキ故ナリカシロノタゴノヒボ一節宛ノ手ニテ持左ノ腰ニアテ右ノ通リニメ一セイニテ出ル

舞足左ヘハシテ柱ノキワニテ足トメ謡

一●月もや出汐満てよ

二●時雨ふる松の風とも（左ノ足カニキ）（右ノ手サシ上ヒテ下ヲ見）ふるまのうらへ

タグリタルヒボソロ〳〵ト柳ノヲヲメヤニテヲユルメヲロス

うみくもるふ（右切ニ左ノヒボノ手ハナス）（右ウケニ三足出）塩まの（左ノ足ニ三スヨセ下ニヨキ下ニサツキナガラ左ノタゴヲ中シ前ヘ右ヘ下ニラクシヨク返シテ立正ヲムク）（左ノ手ニテ左ノタゴノヒボヲ柳ノ中ヘヨセ柳ヲカタヨリヨロシ右ノ方タゴノヒボヲ柳ノ中ヘヨセ柳ヲカタヨリヨロシ又右ノタゴノヒボヲ右ノ手ニテ柳ノ中ヘヨセ下ニサツキナガラ左ノタゴヲ中シ前ヘ右ヘ下ニラクシヨク返シテ立正ヲムク）柳ハツシ右ノ方ハ下ニラクシヨク返シテ立正ヲムク）

左ノ手ニテ左ノタゴノヒボヲ柳ノ中ヘヨセ柳ヲカタヨリヨロシ右ノ方タゴノヒボヲ柳ノ中ヘヨセ柳ヲカタヨリヨロシ又右ノタゴノヒボヲ右ノ手ニテ柳ノ中ヘヨセ下ニサツキナガラ一ツ下ニラクシヨク返シテ立正ヲムク）

きぬき浦の秋の夕暮

●浦ハの秋の夕へか（右向キナガラカツギタルタゴノ柳ヲ支ナリニウシロ〳〵ヘウシロ左ノ手ノ頭上ヲヨセ両方ノヒボヲ柳ノ中ヘヨセ下ニ居ナガラタゴヲ下ニラク紫末同断）

●浦ハの秋の夕暮

三●松風ふくもし知そめし（正ヘ直シ）（ヤノ中ヨリ東ノ下タヨリ見上ケ是ハ下タ月ノ傍ヲ見下タヨリ見ルナリ）やは月汐出てうらへ

正ヘヨヤアリツルホルハアニ老人ヤセキ形

四●ふるか塩為をうはし（右一面計ニテ見右足カシクツロゲビラウキニ計ニテ見ル）なの雁坂の

浦よりも

装束之覚

初シテ面笑尉　揉浅黄

着付尉手目　尉髪

水衣（アトシテ茶茵色ヒロフド類）　腰帯紬子

腰袴　扇子尉扇　田子

後シテ面中将　揉白　着付（白練桃色カイキノ類）

指貫紫浅黄萌黄　腰帯白与色

若髪　冠纓　直衣

扇　緋大口ニ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

張良

装束之覚

初シテ　面小尉　尉髪　小格子厚板　水衣　扇子
腰帯ドンス

後シテ　面茗荷悪尉　輪蔵ノ頭巾　白垂　白地狩衣　沓
半切　腰帯モン付　唐團扇　鉦懐中スル

龍神　黒髭　着付厚板　半切　法被　腰帯　赤頭
金入鉢巻　龍　龍臺　赤杖

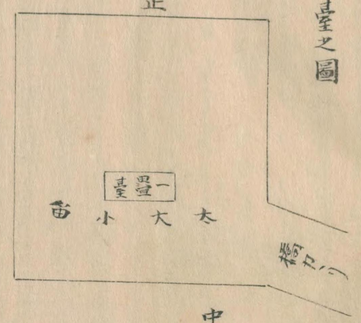
龍神舞附

●早笛一段幕上赤杖モチ一ツヒラキ直ニサシテ出テ松ニテヒラキ身
ヲ直シ●みなきや川波たきりのつ拍子フミ直ニブタイヘ入●
立くるうつくシテ柱ノ内ニテ正ヘヒラキ●浪當る出る右ウケ
●くれなゐの左ノ袖ニテ三ツホトハラフヤフミノワキノ方ヘ出右フミ込
直ニ右ヲ引ヒトヘ身ニナリ左ノコシ入ナカラ左ノ袖ヤヘシワキヲシカ
ト見●流るゝ沓を右ノ方向クツヲ見テ下ニ居クツ両手ニテト
リ左ノ手ニカヽヘテモチテ立右ヘ廻リシテ柱ノキハニテ小廻リノ
ワキヘヒラキ赤杖フリ上ワキヲシカト見數拍子フミハタラキ●ハ
タラキ數拍子フミ角ヘ行角トリワキノ方ヘ行行カヽリ左ヲ
引ワキヲシカト見夫ヨリ左廻リ直ニワキヘ向キ右ヲノリ込拍子
ニツフミ飛上リ左ノヒザタテ右ノヒザツキ下ニ居直ニ左右トクワツ
シナカラ左ヘ廻リ立サシ廻シ右ヘ廻リシテ柱ノキハニテ小廻リノ
ワキヘヒラキ赤杖フリ上ケワキヲ見込テヲル●蛇体はうろれハ
ワキノ方ヘサシ出カケ●沓のうへりふられ赤杖ヲロシサシアト
ヘトリ左ニモチタルクツヲサシ出スワキクツヲトツテ叙ニテキリ
ハラフトキアトヘ飛カヘリ正向下ニ居左ノヒサタテ右ノヒサツキ赤杖
ツキ居立ヲル●まさく波大蛇ハ立正ヘ出●次々勢と左ヲ引
ワキヲ見●かくより後ちワキヘサシ出ヒラキ直ニ右ヘトリ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1
ガラス使用

橋カリノ方向カラ左ノ袖カヘシ左ヲサキニメヒトヘ負ニナリ直ニハシリ入ル

一畳臺之圖



中入ニ狂言入ト一畳臺出ス
●●● 経済士経ト同様
水ノ色ハ何ニテ定ムル

初シテ ノ舞附

●扇モテ幕上ケワキヘ向荒ありやトヨビカケ多あいたる是ヨリ出ル●我ら生列ら橋カリニテ足トメ正●もふそ出列もワキヘ向●まつうのもふしノ手切ヨリ又一松ニテ出カケ足トメ●ひろ〳〵と出合ワキニ向●おくれもあふ左ノ手出シワキサシ●いうりをもつて正ヘ向ヒラキ●ひきけもや〳〵ふ右ヘトリ直ニ入ル●又いうりをもつてヨリ右ヘ廻りひきけもやふ正ヘヒラキ返シニ右ヘトリ入テモヨシ

後シテ ノ舞附

●大ベシニ段幕上ケ唐ウチハ右ニモテ出テ松ニテヒラキ身ヲ直シ柳をハト誘ヒ出ス●我をひるれむ正ヘヒラキ●天乃逆手ニテ右ヲサシ川上ヲ見●法師も正ヘ直ス●言段より仕ヘ

正ヘ出カケ●ひろ〳〵をたいらけ左ノ袖カヘシサシワケ右ヘ廻リ●跡より僧ノ上と足トメノワキヘ向●跡を学ぶそフタイ入直ニ正先ヘ出一ツ足トメ直ニ左ヘトリ一畳臺ノハシ行正向ヨリ臺ヘ上リ右ヘトリ正向床机ニヤル●いうに懸られワキヘ向●ここ弁慶ら立向ヒラキ正●ひつまれワキヘサシ向ワキヲ見ル●思ひあまり〳〵も正●遠の川ふ後見ウシロヨリクツヲ目付柱ノ方ヘナヲ出ス●名ごりもふり立臺ヨリヨリ三足出●ちとそも跡ワキヘ向●常我〳〵ウチハニテ正下ヒトニツアヲキカラ二足斗出●彼一歩とサシ右ノ方向左ノ手一ツ上リヘカケウチハ持カラ右ノ手ニテ巻物トリ出シ左ニ持カヘワキヘワメス又ウチハ左ニモテカヘウチハモナカラ左ノ手一ツ上リヘカケ右ノ手ニテ巻物トリ出シ左ニヲ物モテカヘウチハ右ニモテ巻物ワキヘワタシサシ下リ臺ノ前ニ立ワキヘ向ヨル●まつ彼ら靴ハ正●名ごりもふの右ヘトリ臺ヘ上リ左ヘトリ正向両袖前ヘ合セ直ニ両袖カブリもふつくト両袖ハライ向ヨシヒト見夫ヨリ右ヘトリ臺ノ右ノヨコヨリヨリ直ニ入ル

履之圖

裏ノ圖

横ノ圖

中ノ圖

高サ九寸二分八分

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

●履以前ハシテハイテ出逢の川ふ落しきへハト云処ニテ自身
足ニテクツヲ目付柱ノ方ヘケ出シワキ履ヲトリテシテヘ自身ニハ
アセケレド失礼ニナルユヘ今ハ左様ニハセズ後見履ヲ片ト持出
居リ逢の川ふノ処ニテシテノ後ロヨリ目付柱ノ方ヘナゲ出ス切
モ履自身ニハカスヿ無之

項羽

装束之覚

脇　放髪　段熨斗目　大口　水衣　腰帯　扇子サシ
草持
初シテ面　笑尉 朝倉　熨斗目 小格子ニテモ　水衣　肩上ケ　扇子サス
腰帯　棹
後シテ面　粟男 タカ 小癋見 千草男　白鉢巻　黒頭　唐冠　厚板　法被
半切　腰帯　扇子サス　鉾持
連女ツレ面　箔　唐織　側次
作物　棹　一畳臺　竹ニ草ヲハサミ　ワキヘ渡

シテツレ附

●出端越シテノ先キニ立チ出ル舞臺ノ内ヘ入リ大小ノ前ニ立居●乞
し〜ハ忝いふ返シヨリ正ヘ出臺ヘ上リ●落るはさかゞりシホル
●舟ハおかげ臺ヨリ向ヘヲリ下ニ居スグニ立ワキノ上ミニ行下ニ居

初シテ委シキ附

●さて舟のへにさししよる●ふふ毛棹をさし

(朱書) 左ノ足ツメ棹ニ右ノ手カケテ右ノ足ナヨツトツメ舟ヲトメルコヽロワキ舟ニノリ下ニ居ルシテハ手ヲノケヤハリ立ヲル

(朱書) 左ノ足ツメ棹ヘ手カケ右ノ足ツメワキ上ルニテカケヲル

(朱書) 棹ヲトシワキノ前ヘ行キワキ花ヲツケタルヱノ方ヲ右ノ手ニテ持ナ花ノ方ヲ左ノ手ニテノチヨツト持ナシテヘ出スシテワキノソバヘ行キ立チナガラワキノモナタルヱノ中ノ処ヲ左ノ手ニテモナ右ノ手ニテ美人草ヲ一本ヌキアトヘ二三足サガリ右少シフミヒラキ花ヲ見さらバ此花をたをらふぞるふてハトワキヲ見謡フ此花ヲウケトル時ワキノ方ヨリモ二三足出テノ方ヨリモ出テウケトルナレバワキ柱ノ方ヘヨリスグル時モアリ中ノ

方ニテウケトルトモアルユヘ諾リノ時中ヘスハルトレバスンデスハル
時モアリサガリテスハルトモアルモヨフニヨル

さらばや・何まおてもさふらはん
シテ柱ノ方ヘヨリテヲレハ謡ナガラ真中ヘ行キ下ニ居ル中ホドニ居アバスレバ笠ニ中ニテ下ニ居ル是ハ初ヨリノモヨウ次第ナリ正面向キ花ヲ右ノ下ニヲキ扇ヌキ持ツ花下ニヲクト後見モテ入ル

・さらでだにく〳〵なをとゝめ
扇上ヨリ下タヘサシニスヤフニメ下ケ見又只前ヘ扇ヲ出シテ見テモヨシ 扇右ノ下タヘツキ

・うるまをぬらすくものそら

後シテ委シキ附

扇前ニサシ鉾右ニカタゲ出羽ヲ段〳〵上ゲ右一ツウケ左ヲ出シ一ノ松ニテ右ノ方ヘ廻リ左ノ手ニテ又トリ上右左ヤト高ツセ ヲ右左ヤト高ツセ見ル

・苔を月かと雲ぞうらめしき
ホコヘ左ノ手ニ手カケ右ヘカイ込ニ足出正ヘヒラキホコカイコミヲル

・よこまくるしほのあとふかく
少シ正ヘ出左ノ袖カヘシナガラ左ヘサシヨリ右ノ方ホコニテ下ヘサシヨスヤフニテ右ヘ立リ正ヘ向右ノヒラキ面斗ニテ二ノ方シカト見

・夢ふかきまの声を上げよ又観音の慈悲
左ヲ大キクリ右ヲ先ニテソレ出ホコ前ヘツキ左ノ手ホコヘカケ二足下リホコ右ノカタヘモタセ両手カケ面下ケヲル ツレノ笠ヨリツルヲ面斗ニテ見

・ありとも見えぬ雲の上人
ホコカイコミナガラツカ〳〵ト手スリノキハニテ出シテ柱ノ外ヨリ笠ノ方ヲ見込ラシカニ左ノ手カケテモヨシ夫ヨリ二三足下リフタイヘハタラキもがな〳〵ゆかしき ・ありとも見えぬ雲の上人
カホ通リホコ面ニテニアアゲクシロヲフリ向キ見右ノクシロヘ面キニテホナゲステ 右左右ヘ行フミコミ右ヲ内左ヲソトニシテ面キクミ左川左ノ方ヘ二ワリナガラソリカヘリシテ正向キ安座

皆投すてゝ身さへ浮世の executed

左ノヒサタテ居立ナカラ左ノ袖カヘレワキヲレカト見

・夢物語せよ
シテ柱ノキワニテ両手ニテツカミ左ヲリ正ヘムキナガラ面手右ノ肩ヘアケ右フミ込ナカラ正ヘナゲ出シナガラ左ノヒザツキ右ノヒザヲテ下ニ居立ホコヲヨリナガラ左ノ手ニテヲサヘ右ノヒザツキ左ノヒザタテ

・袂をしぼりかねつゝ
二足下リ左ノ手ニテ双取リヒヲ右左中ト面ツカイ見ル

又

長カイコミ正ヘヒラキ

・古松下のうそ
・黙の雲客よこぎる

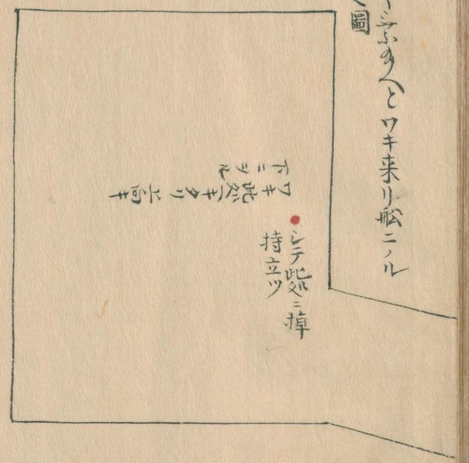
舞働

身をなげ空〳〵成ぬ〳〵ハ一ノ松ニテ基ノ方見込走ヨリ以シテ下リ舞基ヘ入ツカ〳〵ト基ノキワ行基ヘ飛上リ下ヲ見鉾トリ直シ左ノ下ヨリ右ノ方ホコノ石ヅキニテサグリサクリト云ハホコノ石ツキニテ左ヨリ一ノ字ヲカク心持又トリ直シ右ノ方ヨリ左ノ方サグリ右ノ方ヨリ一ノ字ヲカク心持ホコカイ込左ヘ廻リワキ生ノ前ノ方基ノヨコヨリ飛ヲリ大小ノ前ヘ行正ヘヒラキ此処段又ツカ〳〵ト正ヘ出ル基ヘ飛上リヒラキ項羽ハガ〳〵ゞトナル

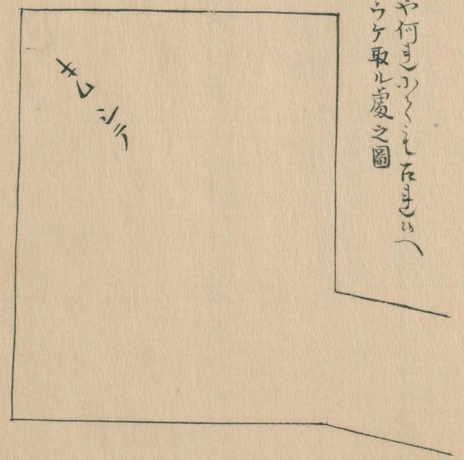
正

一疊基

ゆくくふまくとワキ来リ船ニノル
慶之圖



荒やさしや何まつくくも在まいへ
ト云テ花ヲウケ取ル慶之圖



国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

和シテ舞附

●半蔀　セイニテ扇右ノウシロコシニサシ掃左ニ持幕上ヲ暮ノ内ニテ右ヘツウケ出ニテ柱ノ先ニテ足トメ其首ヲアゲウツト祇●秋毎ニ右ウケ・萩ノ露ヲ正ニ正シ●ヲカヘモノ（ワキ（面キニテ向●ヤハリ正ニ正シ●ヲカヘラレテハトワキ（向●ニクカラヌ身ナレ掃ニテワキ毎ニ来下ニ居ルトキヨサゲ立居ル●秋ヨノヨノコンワキヨ見●夫ノ河面ニシ●秋風次ノ以シレ右ウケ●湊ヨ近キ折切ニ正（正ニ●ニヨマ掃ニ左ノ足ツメワキ上ル迫手ヲカケヲル●ヲガクヘクハ掃（手カケナガラワキヨ見●ヲ取ヲマテハ此時ワキハ立チ祇ヘ行柱（行ク●ニクヘ取ヲハハワキ（●左ヨマ）ハ（掃ヲトシワキノ祇（行竹（左ノ手掛右ニテ花一本ヌキ●此花ヲ下拳●治ヘトハヲヨマテハワキ（●ニヨ）ハ次人ヨトヤ〜〜〜花ヲニノ下（ヘニシテ見テ●ハヘヨ〜〜ウヤ面ヘニナガラ右ノ手ハク●ヨモハ項羽ノきさきぐ〜トワキ（向ク●ニヘトハ項羽正●ニ〜ぱ〜〜つ〜〜ぱセヤハ〜〜語ナガラ真中（行キ下タニ居正面向キ花ヲ右ノ下ニヲキアフギヌキ持●ニクヘモ項羽ヨ祖ノ正●いいハセんとワキ（●ヨマぱ〜うんまいと正●名をあぶうやはるるヨマバワキ（●ここまでよのちの世ヲ正●つるぎをめしく扇ヨヲ下タ（サレ一ロスヤフニシテ下ゲ見ルヌバ前（扇ヲイダシテ見テモヨシサスレハあ（なるト扇右ノ下タ（川キ●ヨヨまでとぶくぶと扇ニテ从サヌ正ニサゲ●ヨのそこれつもとワキ（●詮をこそ誰ハ正●むう〜ようるワキ（●いまハつまで正立クツロギ●ヨヨまでこやハ正●項羽がふまん（ハヘヨヨまでヨヨまでうワキ（●あとヨふ〜ひくるぶ百（ワキ（ヒラキ返シニ入ル

△出羽ニテ鉾カタケ出ノ松ニテヒラキ鉾ツキ掃ノ

ハ項羽ヨ祖ノ正ニ正シ●ヲカヘモノ（ワキ（面キニテ向●ヤハリ正ニ正シ●ヲカヘラレテハトワキ（向●ニクカラヌ身ナレ掃ニテワキ毎ニ来下ニ居ルトキヨサゲ立居ル●秋ヨノヨノコンワキヨ見●夫ノ河面ニシ●秋風次ノ以シレ右ウケ●湊ヨ近キ折切ニ正（正ニ●ニヨマ掃ニ左ノ足ツメワキ上ル迫手ヲカケヲル●ヲガクヘクハ掃（手カケナガラワキヨ見●ヲ取ヲマテハ此時ワキハ立チ祇ヘ行柱（行ク●ニクヘ取ヲハハワキ（●左ヨマ）ハ（掃ヲトシワキノ祇（行竹（左ノ手掛右ニテ花一本ヌキ●此花ヲ下拳●治ヘトハヲヨマテハワキ（●ニヨ）ハ次人ヨトヤ〜〜〜花ヲニノ下（ヘニシテ見テ●ハヘヨ〜〜ウヤ面ヘニナガラ右ノ手ハク●ヨモハ項羽ノきさきぐ〜トワキ（向ク●ニヘトハ項羽正●ニ〜ぱ〜〜つ〜〜ぱセヤハ〜〜語ナガラ真中（行キ下タニ居正面向キ花ヲ右ノ下ニヲキアフギヌキ持●ニクヘモ項羽ヨ祖ノ正●いいハセんとワキ（●ヨマぱ〜うんまいと正●名をあぶうやはるるヨマバワキ（●ここまでよのちの世ヲ正●つるぎをめしく扇ヨヲ下タ（サレ一ロスヤフニシテ下ゲ見ルヌバ前（扇ヲイダシテ見テモヨシサスレハあ（なるト扇右ノ下タ（川キ●ヨヨまでとぶくぶと扇ニテ从サヌ正ニサゲ●ヨのそこれつもとワキ（●詮をこそ誰ハ正●むう〜ようるワキ（●いまハつまで正立クツロギ●ヨヨまでこやハ正●項羽がふまん（ハヘヨヨまでヨヨまでうワキ（●あとヨふ〜ひくるぶ百（ワキ（ヒラキ返シニ入ル

△出羽ニテ鉾カタケ出ノ松ニテヒラキ鉾ツキ掃ノ

海をあの世までも語れや我心むつまじくも入る月の巣ぐもの

ま〜我こそは項羽の幽霊なり

ヨヨまでうら恥かしくもし給へ

（早上歌）

かくふるまふも敵法の老

ぶようさ〜ウ〜〜ぶようさ〜ウ〜〜

三界不安猶如火宅

あけ一切有情救害

衆苦

弥野田ノ月ノ烟体霧ノ

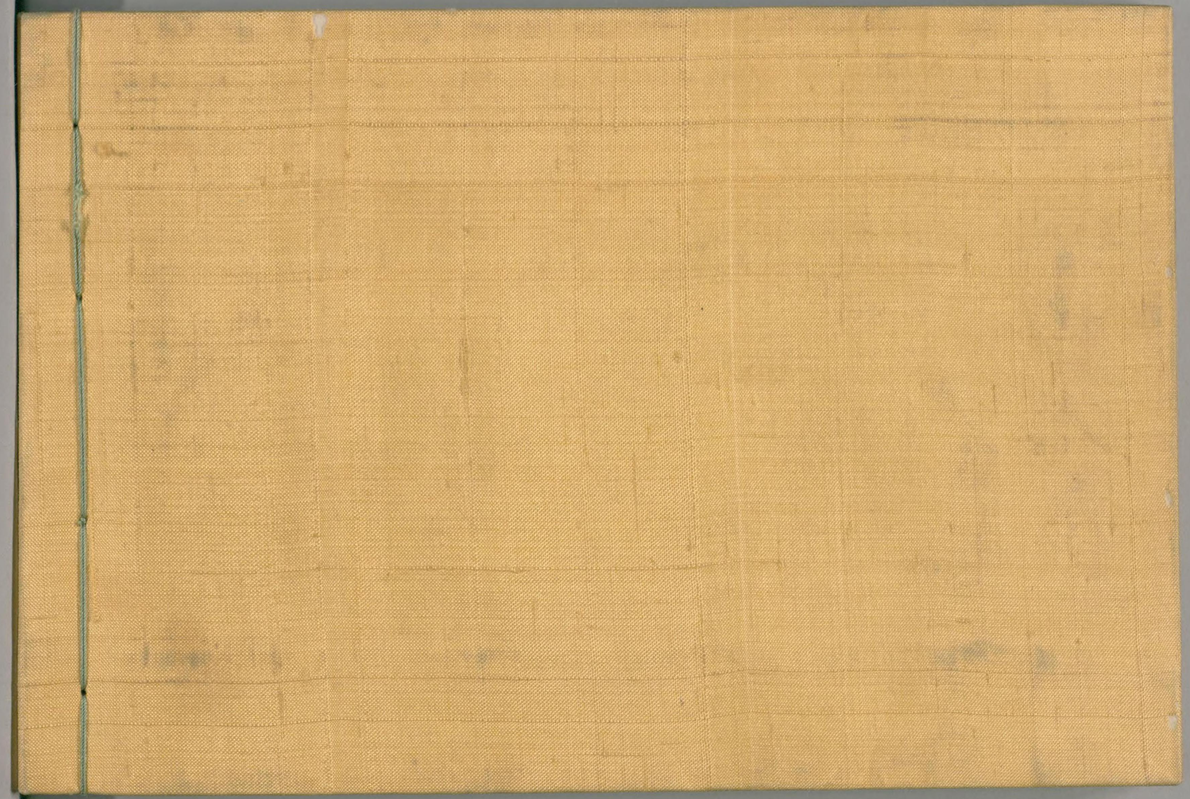
国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

古松下乃めを苔[illegible]しとし
て回路を埋む　[illegible]
よしさり出立き　天津し女
乃ぶら色り肌　をのく彼
樂を奏し行ゆく夢乃
行きなし彈琴ひは乃温
面に関声ばられしまさ挑
心乃責年りそやあら苔
乃ゆきんやね　虞氏を
思ひ場りねく見しは思ひ
にまとりて給ひて高樓
りのほるて落るはけなり
和漢を雨乃月をあきむ

ぶしく成なくて　塡[illegible]
虞氏の別きと秋月乃成
け年紫乃露詰たに清果
し悲しさ思ひ出れは秋の鉾
を皆投拾て月をなく計
に口をしかりし夢物語そ
あはまあれ立あられ
き脇恵乃煽衰なし
志んぬれなのほこちあらつて
味方を見れば高程に属し
てよせられ波乃あらき拝
くさけも腹立いて抽見
きんとこれからかき出敵

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用